

地域再生計画（地方創生港整備推進交付金）事後評価調書

|       |              |        |                      |         |                       |
|-------|--------------|--------|----------------------|---------|-----------------------|
| 都道府県名 | 岡山県          | 事業実施主体 | 岡山県、笠岡市              | 地域再生計画名 | 安心がもたらす活力あるかさおか港づくり計画 |
| 計画期間  | 平成28年度～令和4年度 | 評価責任者  | 岡山県 土木部港湾課長、笠岡市 建設部長 |         |                       |

|                              | 指標   |   | 基準値    |     | 中間目標値  |      | 最終目標値  |        | 事後評価 | 達成状況   |   | 最終目標値の実現状況に関する評価 |     |   |
|------------------------------|------|---|--------|-----|--------|------|--------|--------|------|--------|---|------------------|-----|---|
|                              |      |   | 基準年度   | 年度  | 中間実績   | 基準年度 | 最終実績   |        |      |        |   |                  |     |   |
| ①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況        | 指標 1 | 旅客船の利用者の維持<br>笠岡港の旅客船の利用者数                    | 15.0万人 | H27 | 14.0万人 | H30  | 13.0万人 | 12.8万人 | R4   | 10.3万人 | × | 指標総数             | 達成数 | 最終目標は達成できなかったが、新型コロナウイルスの影響により旅行者の大幅に減少したことが原因と思われる。しかし、利用者数は令和2年度から上昇傾向にあることから、今後利用者の回復は見込まれる。 |
|                              | 指標 2 | 荒天時における他港からの避難船<br>受入れ数の増加<br>高島漁港への避難船の受入れ隻数 | 0隻     | H30 | 8隻     | H30  | 0隻     | 16隻    | R4   | 16隻    | ○ | 2                | 1   | 漁港内の静穏度が確保されたことにより荒天時に船舶が目標のとおり停泊可能となった。  |
| ②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況 | 指標 1 |   |        |     |        |      |        |        |      |        |   |                  |     |   |
|                              | 指標 2 |   |        |     |        |      |        |        |      |        |   |                  |     |   |

| ③事業の進捗状況      | 事業名                            | 整備量（その他の事業では取組内容）                                    |              |                     | 事業の進捗状況に関する評価   |
|---------------|--------------------------------|--|--------------|---------------------|---|
|               |                                | 計画   | 中間年度（R元）     | 最終実績                |   |
| 特別措置を適用して行う事業 | 笠岡港整備事業                        | 浮桟橋<br>移設1基<br>新設1基                                  | 浮桟橋<br>移設1基  | 浮桟橋<br>移設1基<br>新設1基 | 今回の整備により、旅客者及び荷物運搬者に対して待合所からの移動時間が短縮され、海上交通の利便性が高められた。また、定期船とその他小型船舶の輻輳がなくなり港内の安全性が向上した。          |
|               | 高島漁港整備事業                       | 防波堤<br>L=135m  | 防波堤<br>L=45m | 防波堤<br>L=135m       | 今回の整備により荒天時に船舶の緊急避難も受け入れも可能となり、本事業の目標であった海上交通機能の確保や港内作業の安全性の確保が図られた。また、停泊中の船舶における維持管理の負担軽減も見込まれる。 |
| その他の事業        | 笠岡港（住吉地区）乗場環境改善事業（待合所、観光駐車場整備） | 待合所の新設   |              |                     | 浮桟橋の整備に伴い、その周辺を一体的に整備することにより、観光拠点だけでなく離島振興及び地域学連携の拠点として、機能向上が図られ、観光客をはじめとした交流人口の増加に結び付くことが期待される。  |
|               |                                |  |              |                     |   |
| 計画外で独自に実施した事業 | 海洋牧場事業                         | 音で魚を飼慣らして定着を図るとともに、稚魚の発生から親魚に至るまでの生育環境を整える漁場施設の運営管理  |              |                     | 地元漁協が漁場施設の運営管理を行っており、その他水産資源の増殖を図るため、種苗放流や資源管理に取り組み漁獲量の増加を図っている。                                  |
|               | アマモ場の再生                        | アマモ場再生のため、アマモの花枝採取や播種を行う。                            |              |                     | 地元の学生もアマモの採取や播種に参加しており、アマモ場の再生活動を通して、美しく豊かな海づくりについて理解を深めている。                                      |
|               | 地産地消の鮮魚販売「朝市」                  | 地産地消のための地元で水揚げされた海産物の朝市の開催                           |              |                     | 開店前に行列ができるなど、認知度が高く漁業者との交流が図られる場として成熟している。  |
|               | 島おこし                           | 瀬戸内海の鮮魚と三宅島（東京都）の火山灰を使って熟成干物魚々干（とっとぼし）を特産化し広く販売している。 |              |                     | ふるさと納税の返礼品になるなど、地元特産品として広く認知されており、PR効果が効果が期待される。  |
|               | 都市漁村等交流推進事業                    | 地元の小学生とその親を対象として、漁業について正確な理解と水産資源の保護について学習する。        |              |                     | 地元小学生に実際に地引網を引いてもらうなど、実体験を通して漁業への認知度の向上が図られた。   |
|               | 島の運動会及び交流事業                    | 地域でイベントを企画し、地元の伝統行事の保持・継承を行う中で、漁業についても伝えていく。         |              |                     | 笠岡諸島の島民同士の結びつきの強化や、島外からの参加者との交流が深まり、漁獲物の販売を通じて、漁業の認知度の向上が図られている。                                  |

④評価方法 笠岡市が毎年開催している評価委員会及び岡山県事業評価監視委員会において、評価検討を行った。

⑤事後評価の公表方法 笠岡市建設事業課のホームページに掲載

⑥計画全体の総合評価 本地域再生計画では、港湾及び漁港の一体的な整備により、旅客船の利用者数の維持や避難船受け入れ数の増加を目標として設定した。さらに、地元団体等が行う離島振興活動や漁業後継者の確保・育成に向けた活動と連携することで、地域の一体的な再生と発展も期待されることである。  
目標としていた旅客船利用者数については、最終目標は達成できなかったが、計画期間中の新型コロナウイルスの影響により旅行者が大幅に減少したことが原因と思われる。現在の利用者数については上昇傾向であり、新型コロナウイルスの影響を受ける前の数値まで回復していることから、今後も利用者数の上昇が見込まれる。  
また、荒天時における他港からの避難船受け入れ数については、外郭施設整備が完了し、避難船の受け入れ体制を整えることができた。

⑦今後の方針等 本地域計画においては円滑に整備を進められたが、新型コロナウイルスの流行など想定外の事象が起こったため、最終目標の一つである旅客船利用者数については目標達成はできなかった。しかし、徐々にコロナ禍前までの数字に回復してきており、引き続き地域の再生に向けた取り組みを続ける。また、さらなる交流人口の増を図るために、都市漁村等交流促進事業や島の運動会及び交流事業の促進、漁村の地域資源の価値を活用した海業の実施など、地域の賑わいや雇用の促進を一層強化していきたいと考えている。